

2017年12月期  
決算説明会資料

荏 原 (6361)

2018年2月15日

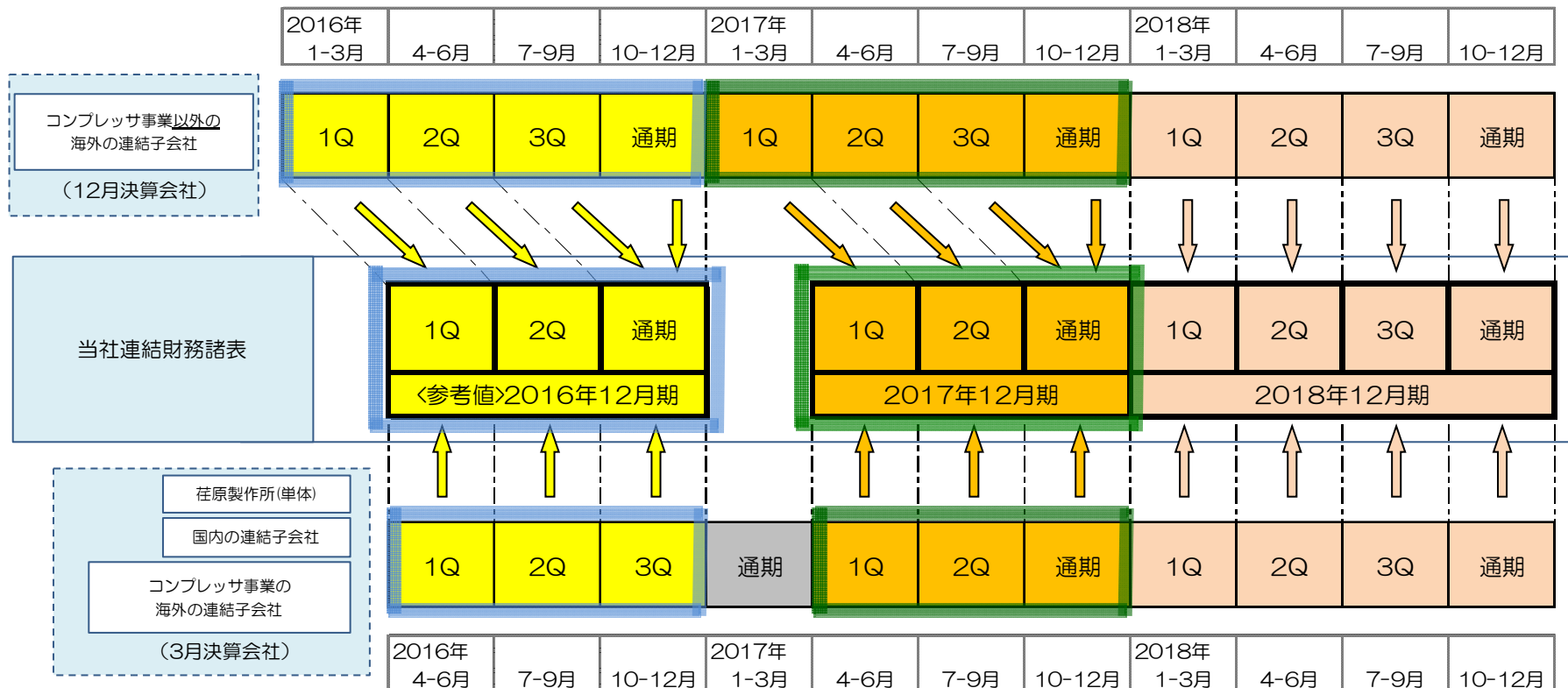


# 1. 決算概要

## 決算期の変更

### 決算期(事業年度の末日)の変更

- ✓ 当社は、2017年12月期より決算期を3月末から12月末に変更した。
- ✓ 決算期変更の経過期間となる当連結会計年度については、従来3月決算の連結会社では 2017年4月～12月の9か月間を、従来より12月決算の連結会社では2017年1月～12月の12か月間を連結対象期間としている。
- ✓ 本資料では、2017年12月期(変則9か月)の実績を同一期間と比較するため、3月決算会社の2016年4月～12月の9か月間実績と、12月決算会社の2016年1月～12月の12か月間実績とを組み合わせ作成した参考値(2016年12月期)を使用する。



# 1. 決算概要

## 2017年12月期決算 サマリー

(単位：億円)

	<参考値> 2016年12月期 実績 (変則9か月)	2017年12月期 実績 (変則9か月)	増減	2017年12月期 見込み*	増減
受注高	3,854	4,135	+ 281	4,040	+ 95
売上高	3,502	3,819	+ 317	3,640	+ 179
営業利益	114	181	+ 66	160	+ 21
経常利益	95	165	+ 70	145	+ 20
親会社株主に 帰属する 当期純利益	73	95	+ 21	90	+ 5

為替レート  
(平均)

<参考値>

1ドル = 107.1円

1ドル = 112.3円

1ドル = 110円

※ 2017年11月発表時点のもの。以後同じ。

※※本資料において「1Q」は3ヶ月累計期間、「2Q」は6ヶ月累計期間、「3Q」は9ヶ月累計期間、「4Q」は12ヶ月累計期間を示しています。  
またこのページ以降、特別な記載がない限り、数値の単位を『億円』で表示しています。

# 1. 決算概要

## 2017年12月期決算 事業セグメント別

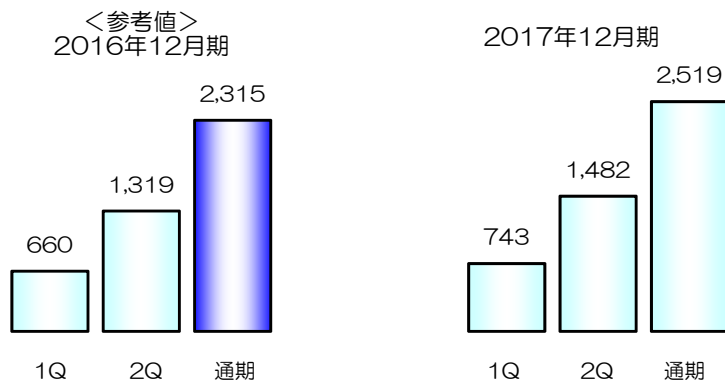
	受注高			売上高			営業利益		
	<参考値> 2016年 12月期 変則9か月	2017年 12月期 変則9か月	増減	<参考値> 2016年 12月期 変則9か月	2017年 12月期 変則9か月	増減	<参考値> 2016年 12月期 変則9か月	2017年 12月期 変則9か月	増減
風水力事業	2,315	2,519	+ 204	2,138	2,257	+ 119	△ 34	12	+ 46
環境プラント 事業	509	515	+ 5	457	476	+ 19	39	31	△ 8
精密・電子 事業	1,016	1,088	+ 71	894	1,073	+ 178	103	136	+ 33
その他 調整	12	12	△ 0	12	12	△ 0	5	0	△ 5
合計	3,854	4,135	+ 281	3,502	3,819	+ 317	114	181	+ 66

# 1. 決算概要

## 2017年12月期決算 事業セグメント別

### 風水力事業

#### 受注高



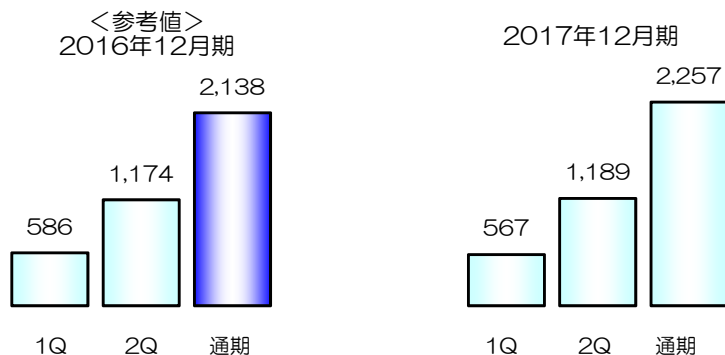
#### 【受注高・売上高】

- ✓ ポンプ事業で標準ポンプが国内・海外ともに増加
- ✓ コンプレッサ・タービン事業の顧客の投資判断遅れは一部で底打ちがみられる

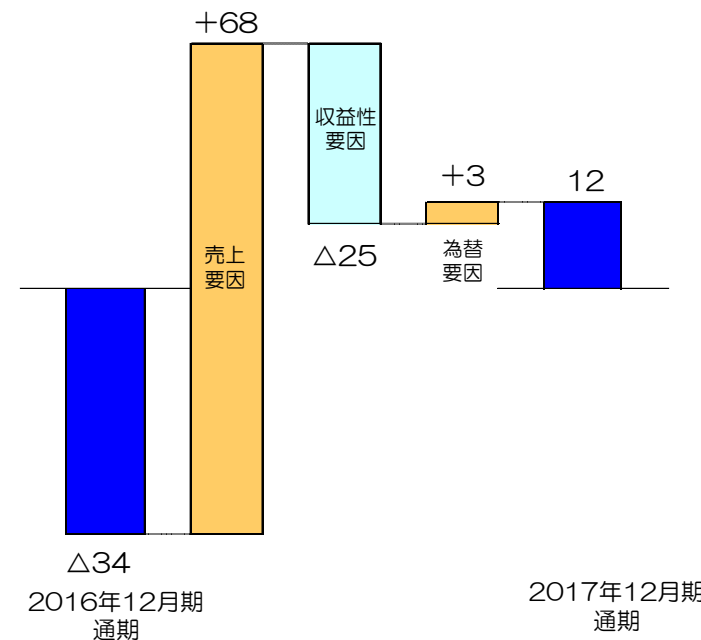
#### 【営業利益】

- ✓ 増収の影響 (+)
- ✓ サービス&サポート (S&S) 売上の構成比が減少 (-)

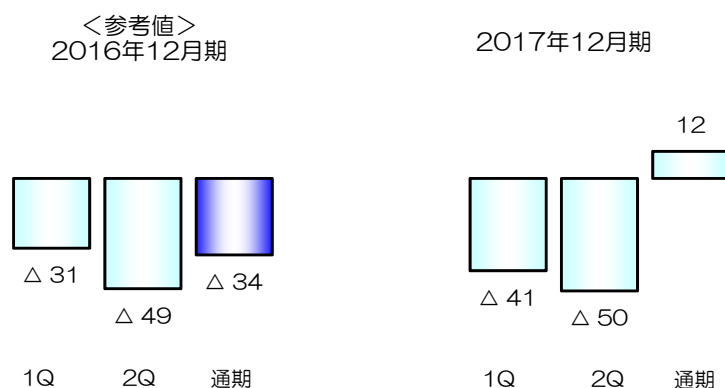
#### 売上高



#### 増減要因分析



#### 営業利益

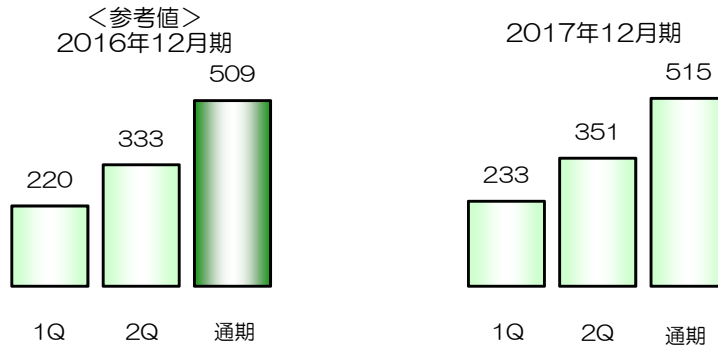


# 1. 決算概要

## 2017年12月期決算 事業セグメント別

### 環境プラント事業

#### 受注高



#### 【受注高】

✓ 例年並みの水準で着地

#### 【売上高】

✓ 国内では延命化案件が減少

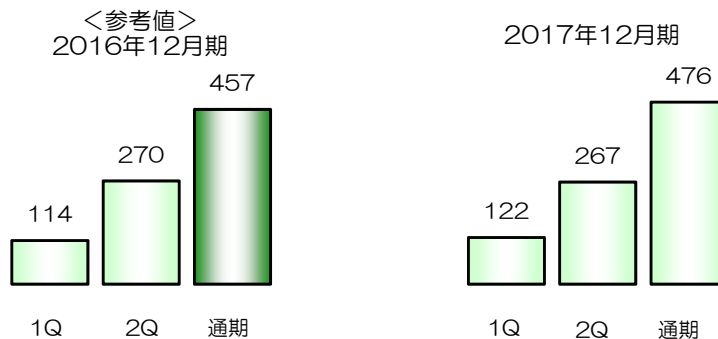
✓ 中国の製造子会社で増収

#### 【営業利益】

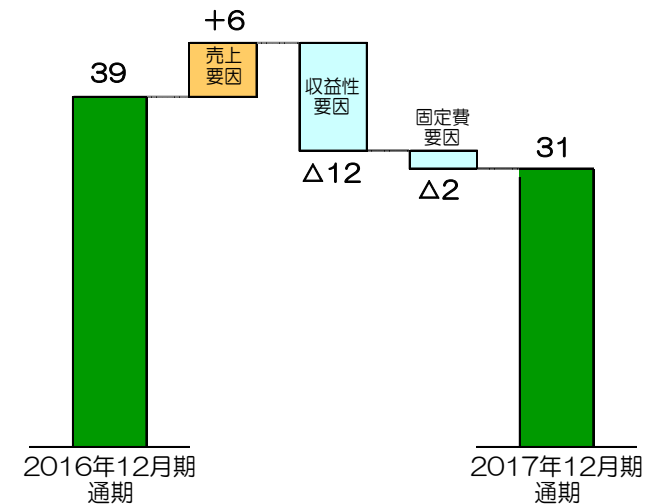
✓ 延命化案件の減少により収益性が悪化 (-)

✓ 長期包括案件の引当金を計上 (-)

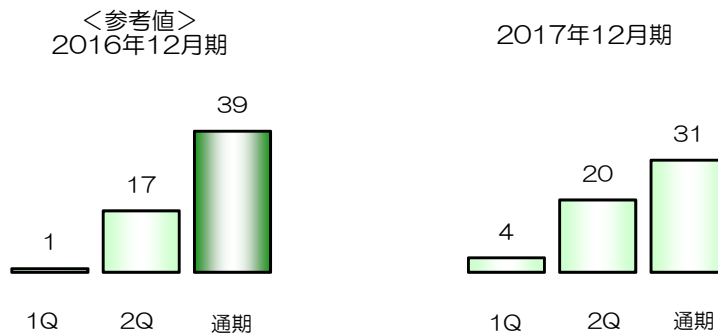
#### 売上高



#### 増減要因分析



#### 営業利益

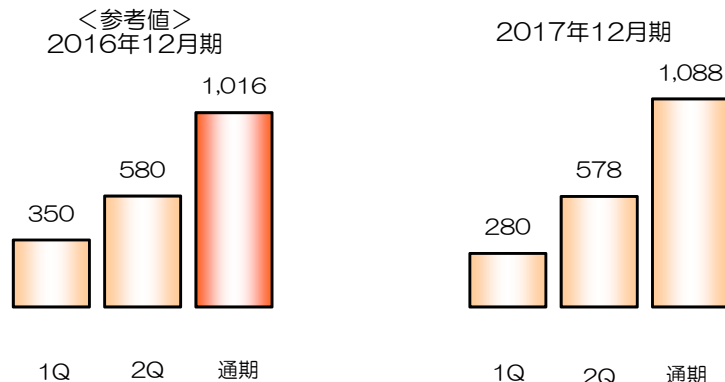


# 1. 決算概要

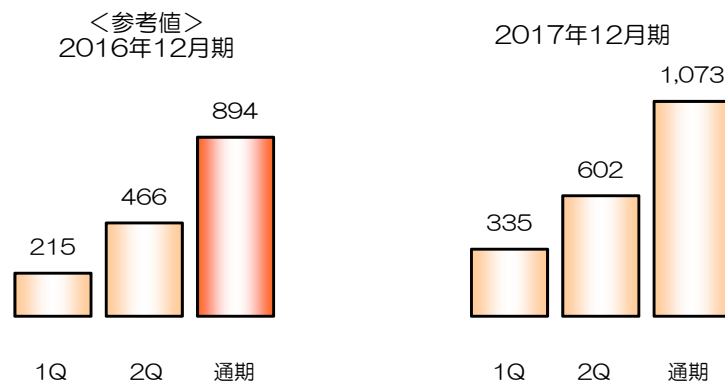
## 2017年12月期決算 事業セグメント別

### 精密・電子事業

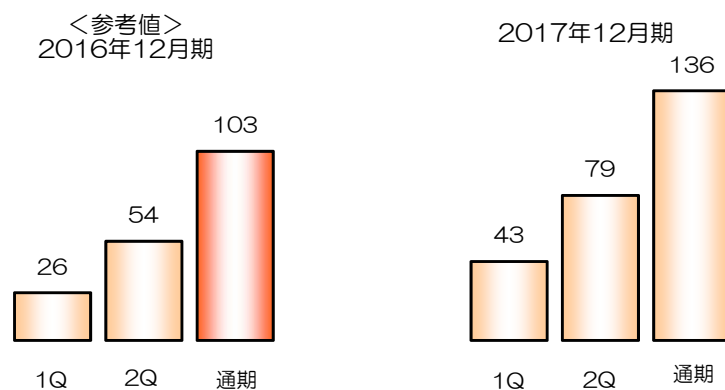
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### 【受注高】

✓ 顧客の設備投資は引き続き好調

#### 【売上高】

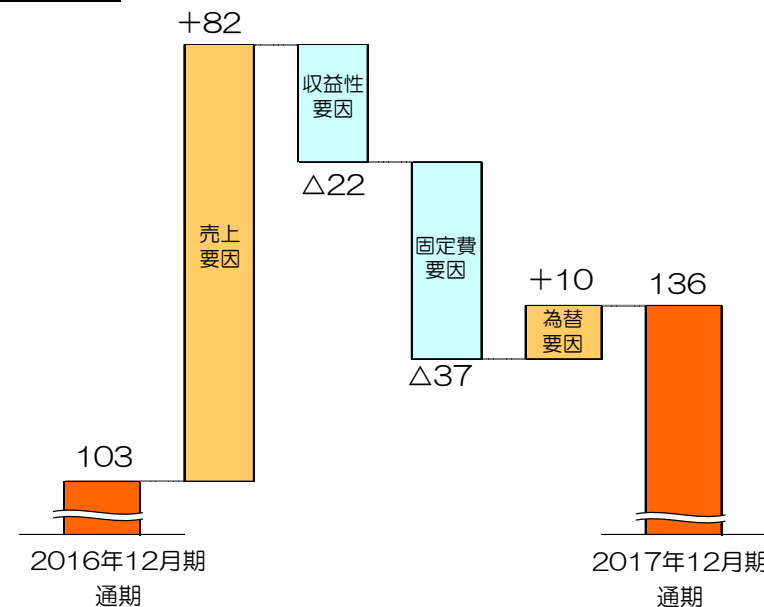
✓ 好調な受注を背景にコンポーネント事業、CMP事業ともに増加

#### 【営業利益】

✓ 増収効果が大きく実現 (+)

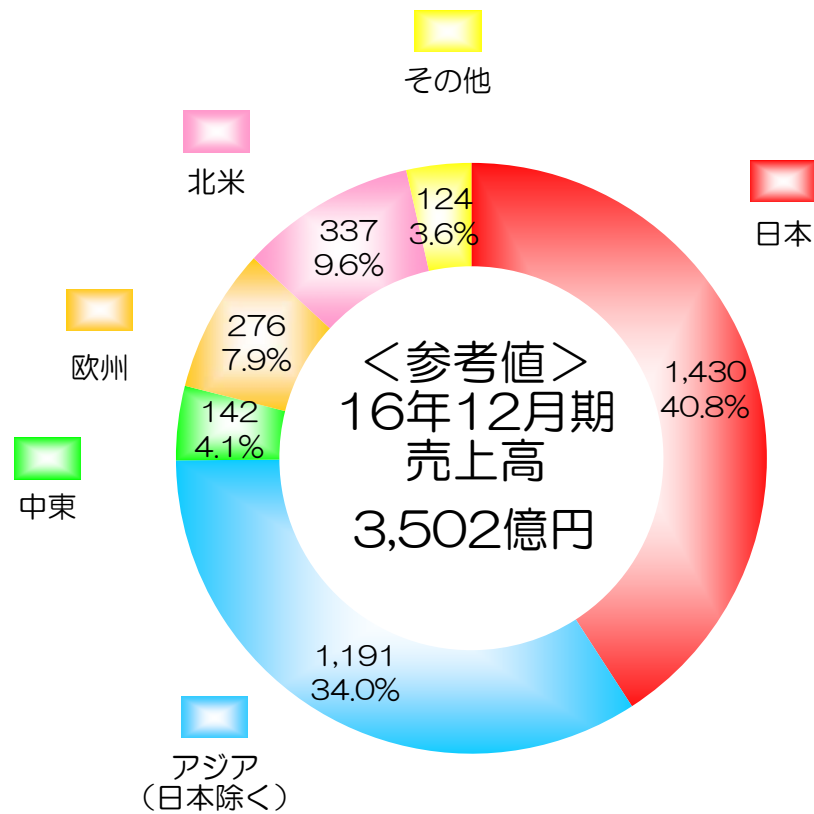
✓ 開発機や評価機といった先行的な費用や、経費を中心とした固定費も増加 (-)

#### 増減要因分析



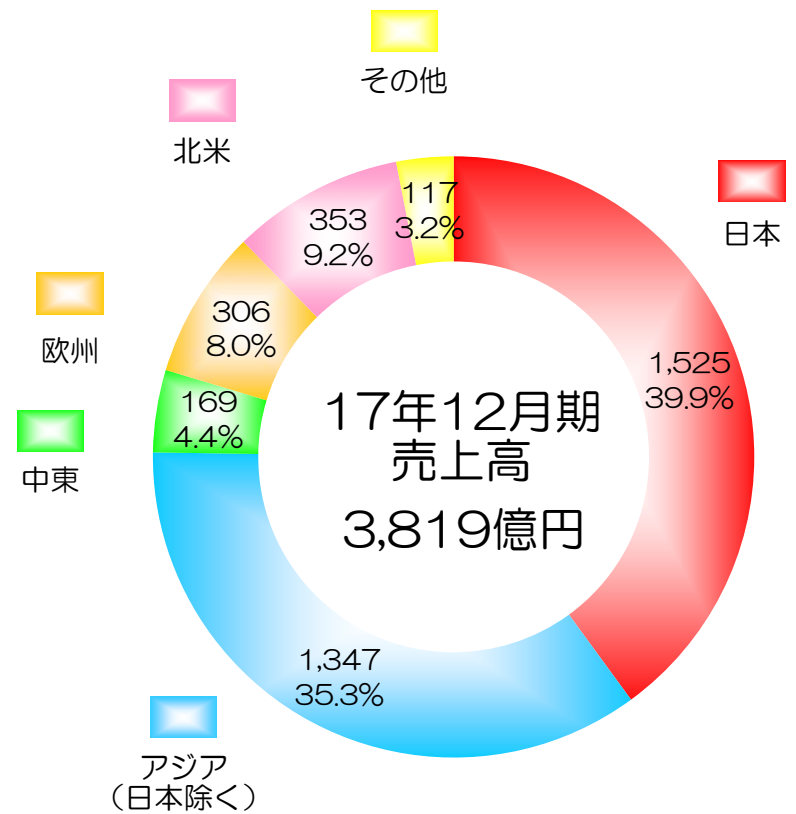
# 1. 決算概要

## 2017年12月期決算 地域別売上構成



海外売上高  
2,072億円

海外売上比率  
59.2%



海外売上高  
2,294億円

海外売上比率  
60.1%



# 1. 決算概要

## 2017年12月期 貸借対照表

	2017年 3月末	2017年 12月末	増減
流動資産	4,234	4,474	+ 240
現預金、有価証券	928	1,408	+ 480
売上債権	2,073	1,753	△ 320
棚卸資産	973	1,095	+ 122
その他	258	217	△ 40
固定資産	1,650	1,654	+ 3
有形固定資産	1,101	1,102	+ 0
無形固定資産	132	120	△ 11
投資その他	416	431	+ 14
資産合計	5,884	6,129	+ 244

	2017年 3月末	2017年 12月末	増減
負債	3,109	3,281	+ 171
仕入債務	1,200	1,196	△ 4
有利子負債	965	1,145	+ 180
その他	943	939	△ 4
純資産	2,775	2,847	+ 72
株主資本	2,774	2,809	+ 35
その他の包括利益	△ 60	△ 30	+ 30
新株予約権	13	11	△ 1
非支配株主持分	47	56	+ 8
負債・純資産合計	5,884	6,129	+ 244

# 1. 決算概要

## 2017年12月期 財務情報

### <経営指標>

	2017年 3月期	2017年 12月期
	実績	実績
ROIC	5.6%	2.5%
ROE	8.0%	3.5%
D/Eレシオ	0.36	0.41

### <キャッシュフロー>

	2017年 3月期	2017年 12月期	2018年 12月期
	実績	実績	計画
営業活動CF	+ 338	+ 441	+ 360
投資活動CF	△ 185	△ 79	△ 250
フリーCF	+ 152	+ 362	+ 110
財務活動CF	△ 151	+ 112	△ 146

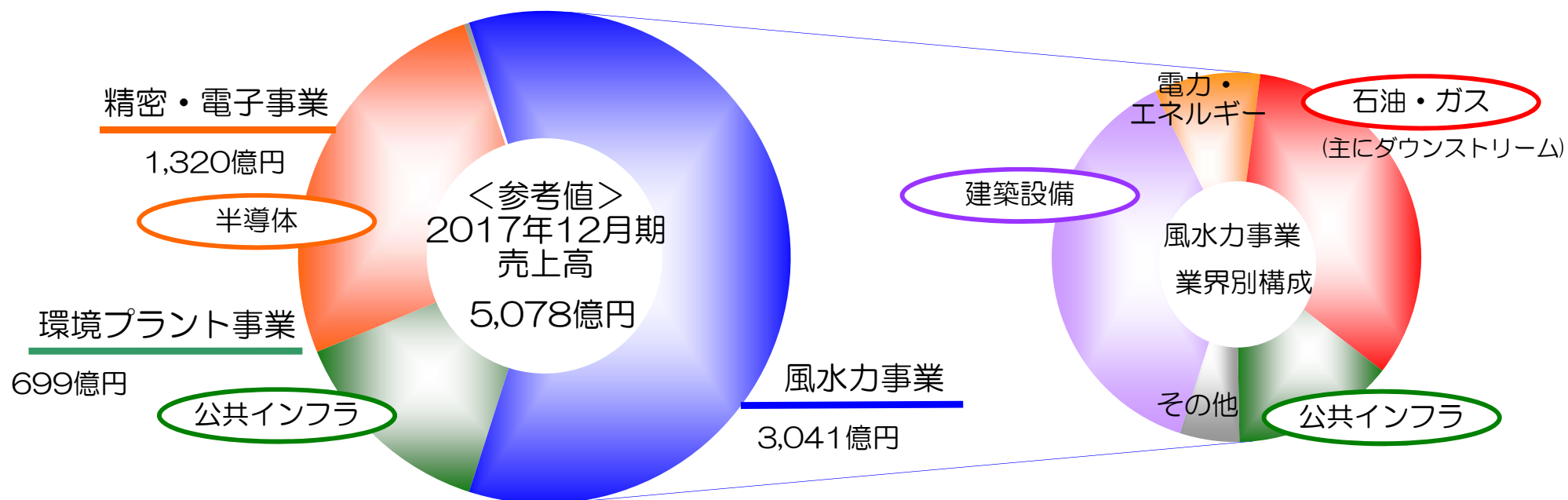
### <1株当たりの配当金及び総還元性向> 単位：円

	2017年 3月期	2017年 12月期	2018年 12月期
	実績	実績	予想
第2四半期末	6	30	30
期末	30	15	30
合計	-	45	60
総還元性向	28.1%	48.0%	27.7%

### <資本的支出・減価償却費・研究開発費>

	2017年 3月期	2017年 12月期	2018年 12月期
	実績	実績	計画
<b>資本的支出</b>	<b>226</b>	<b>123</b>	<b>230</b>
風水力	118	66	90
環境プラント	11	4	5
精密・電子	74	40	90
その他	23	12	45
<b>減価償却費</b>	<b>137</b>	<b>119</b>	<b>150</b>
風水力	85	69	75
環境プラント	4	4	5
精密・電子	29	27	45
その他	18	16	25
<b>研究開発費</b>	<b>87</b>	<b>72</b>	<b>130</b>
風水力	47	38	50
環境プラント	2	3	5
精密・電子	37	30	75

※2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施。  
2017年3月期の1株当たり期末配当金は当該株式併合の影響を考慮した金額を記載。年間配当金合計は「-」として記載。



#### 主な事業環境

- 石油・ガス (主にダウンストリーム) → 原油価格は上昇も、顧客の設備投資の回復は緩やか
- 公共インフラ → インフラの更新・補修関連の投資は安定的
- 建築設備 → 国内は安定的 海外は回復基調
- 半導体 → 需要は高水準で安定

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

## 2018年12月期の業績見通し

	<参考値> 2017年12月期 実績	2018年12月期 (計画)	増減
受注高	5,060	5,350	+ 289
売上高	5,078	5,050	△ 28
営業利益	366	370	+ 3
経常利益	354	360	+ 5
当期純利益	227	220	△ 7

為替レート <参考値>  
(平均) 1ドル = 112円 1ドル = 110円 (想定)

※2018年12月期（2018年1月～12月）の業績見通しを同一期間と比較するために、2017年12月期（変則9か月）の実績を2017年1月～12月に組み替えた数値（非監査）を参考値（2017年12月期実績）として開示している。

2017年				2018年							
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月				
コンプレッサ事業以外の 海外の連結子会社 (12月決算会社)				1Q	2Q	3Q	通期	1Q	2Q	3Q	通期
当社連結財務諸表				↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
				1Q	2Q	3Q	通期	1Q	2Q	3Q	通期
				<参考値>2017年12月期				2018年12月期			
元原製作所(単体) 国内の連結子会社 コンプレッサ事業の 海外の連結子会社 (3月決算会社)				↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
				1Q	2Q	3Q	通期	1Q	2Q	3Q	通期
2017年	2018年										
1-3月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月			

2017年12月期 決算説明会

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

### 2018年12月期の業績見通し

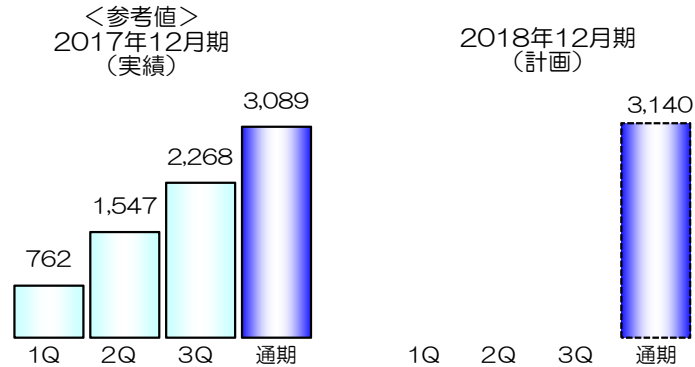
	受注高			売上高			営業利益		
	<参考値> 2017年 12月期 (実績)	2018年 12月期 (計画)	増減	<参考値> 2017年 12月期 (実績)	2018年 12月期 (計画)	増減	<参考値> 2017年 12月期 (実績)	2018年 12月期 (計画)	増減
風水力事業	3,089	3,140	+ 50	3,041	3,140	+ 98	141	135	△ 6
環境プラント 事業	651	900	+ 248	699	600	△ 99	49	60	+ 10
精密・電子 事業	1,303	1,300	△ 3	1,320	1,300	△ 20	174	170	△ 4
その他 調整	16	10	△ 6	16	10	△ 6	1	5	+ 3
合計	5,060	5,350	+ 289	5,078	5,050	△ 28	366	370	+ 3

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

# 2018年12月期決算見通し 事業セグメント別

### 風水力事業

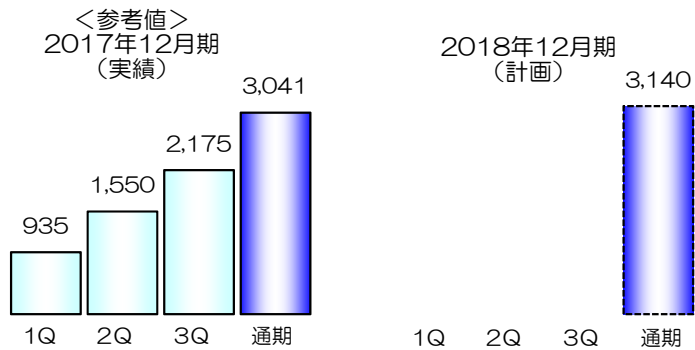
#### 受注高



#### 【受注高】

- ✓ ポンプ事業は海外で標準ポンプが増加する見込み
- ✓ コンプレッサ・タービン事業の回復基調は緩やか

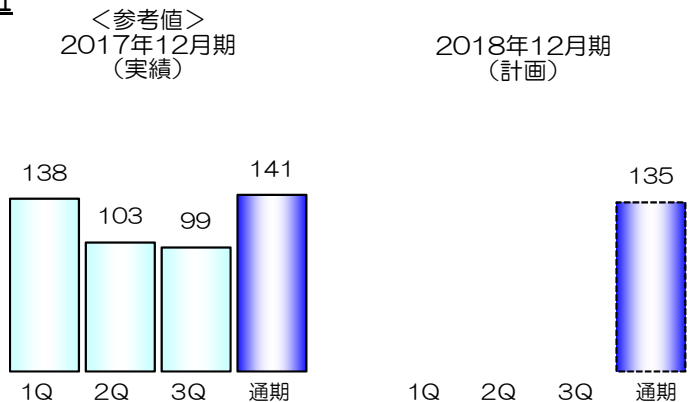
#### 売上高



#### 【売上高・営業利益】

- ✓ ポンプ事業は増収増益の見込み
- ✓ コンプレッサ・タービン事業の利益改善は遅れる

#### 営業利益

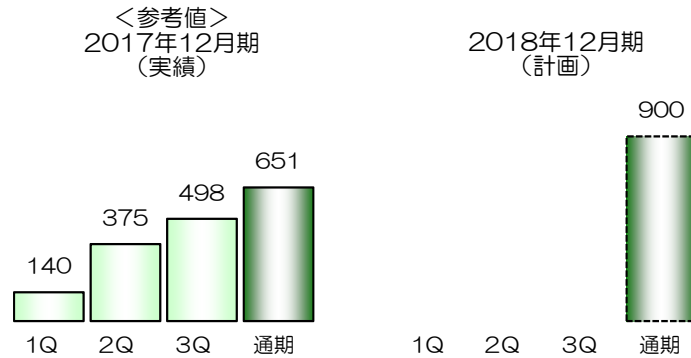


## 2. 今期の見通しと 経営戦略

# 2018年12月期決算見通し 事業セグメント別

### 環境プラント事業

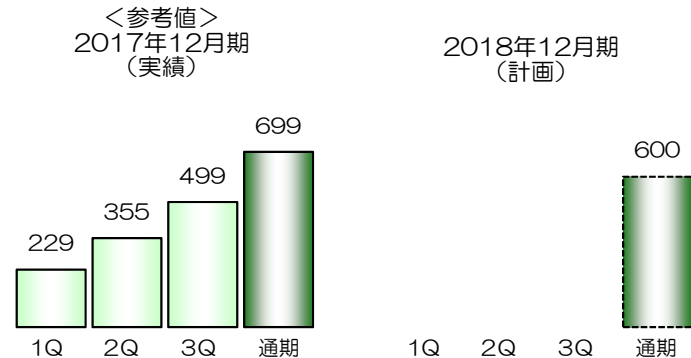
#### 受注高



#### 【受注高】

- ✓ 複数の内示案件あり
- ✓ 延命化案件の発注が増加する見込み

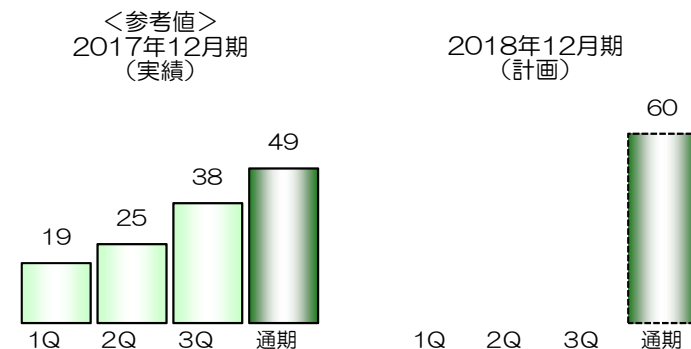
#### 売上高



#### 【売上高】

- ✓ EPCの受注残減少により減収

#### 営業利益



#### 【営業利益】

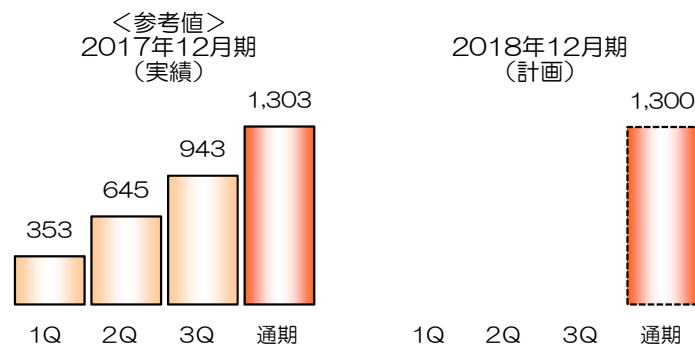
- ✓ EPCの収益性が改善する見込み
- ✓ 前期に長期包括案件の引当金を計上

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

# 2018年12月期決算見通し 事業セグメント別

### 精密・電子事業

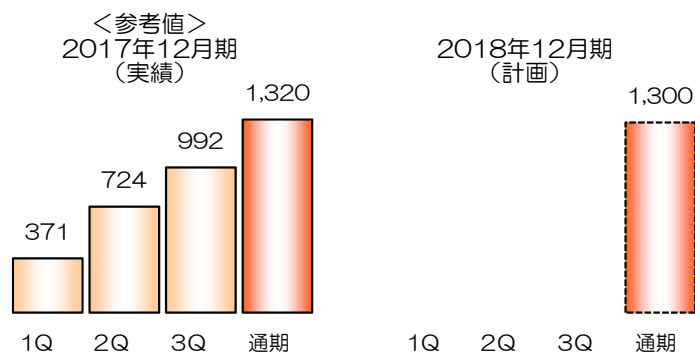
#### 受注高



#### 【受注高・売上高】

- ✓ 半導体市場の設備投資は好調が持続する見込み
- ✓ コンポーネント事業、CMP事業ともに高い水準が続く

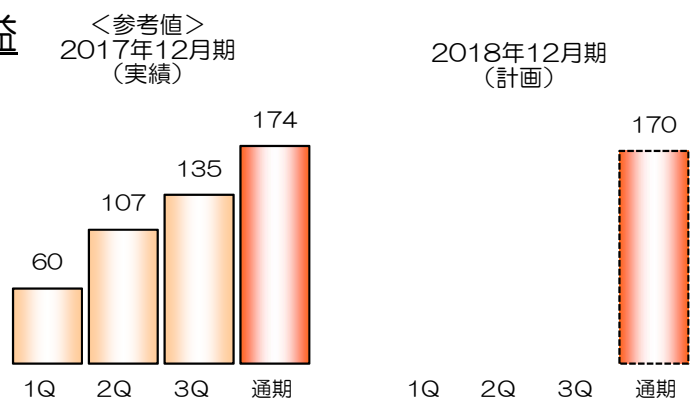
#### 売上高



#### 【営業利益】

- ✓ 研究開発費の期ずれもあり固定費は増加の見込み
- ✓ 開発要素の高い案件は引続き増加

#### 営業利益





# 事業別 受注高の内訳

## 受注高

	変則9か月決算					12ヵ月決算		
	〈参考値〉 2016年 12月期 実績	2017年 12月期			増減	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期 計画	増減
		見込み	実績	増減				
風水力事業								
ポンプ	1,456	1,500	1,552	+ 52	+ 95	1,861	1,780	△ 81※
コンプレッサ・タービン	445	550	569	+ 19	+ 124	714	850	+ 135※
冷熱	275	250	292	+ 42	+ 16	345	370	+ 24
その他	138	130	106	△ 23	△ 31	167	140	△ 27
風水力事業 計	2,315	2,430	2,519	+ 89	+ 204	3,089	3,140	+ 50
環境プラント事業								
環境プラント	509	500	515	+ 15	+ 5	651	900	+ 248
環境プラント事業 計	509	500	515	+ 15	+ 5	651	900	+ 248
精密・電子事業								
コンポーネント	399	490	539	+ 49	+ 139	598	570	△ 28
CMP装置	579	545	479	△ 65	△ 100	627	670	+ 42
その他	37	65	69	+ 4	+ 32	77	60	△ 17
精密・電子事業 計	1,016	1,100	1,088	△ 11	+ 71	1,303	1,300	△ 3
その他	12	10	12	+ 2	△ 0	16	10	△ 6
その他 計	12	10	12	+ 2	△ 0	16	10	△ 6
合計	3,854	4,040	4,135	+ 95	+ 281	5,060	5,350	+ 289

※2017年12月期実績においてポンプ事業に含まれていますクライオポンプ（LNG（液化天然ガス）移送用ポンプ）事業の受注高及び売上高につきましては、2018年12月期予想ではコンプレッサ・タービン事業に含めて計画しています。

# 事業別 売上高の内訳

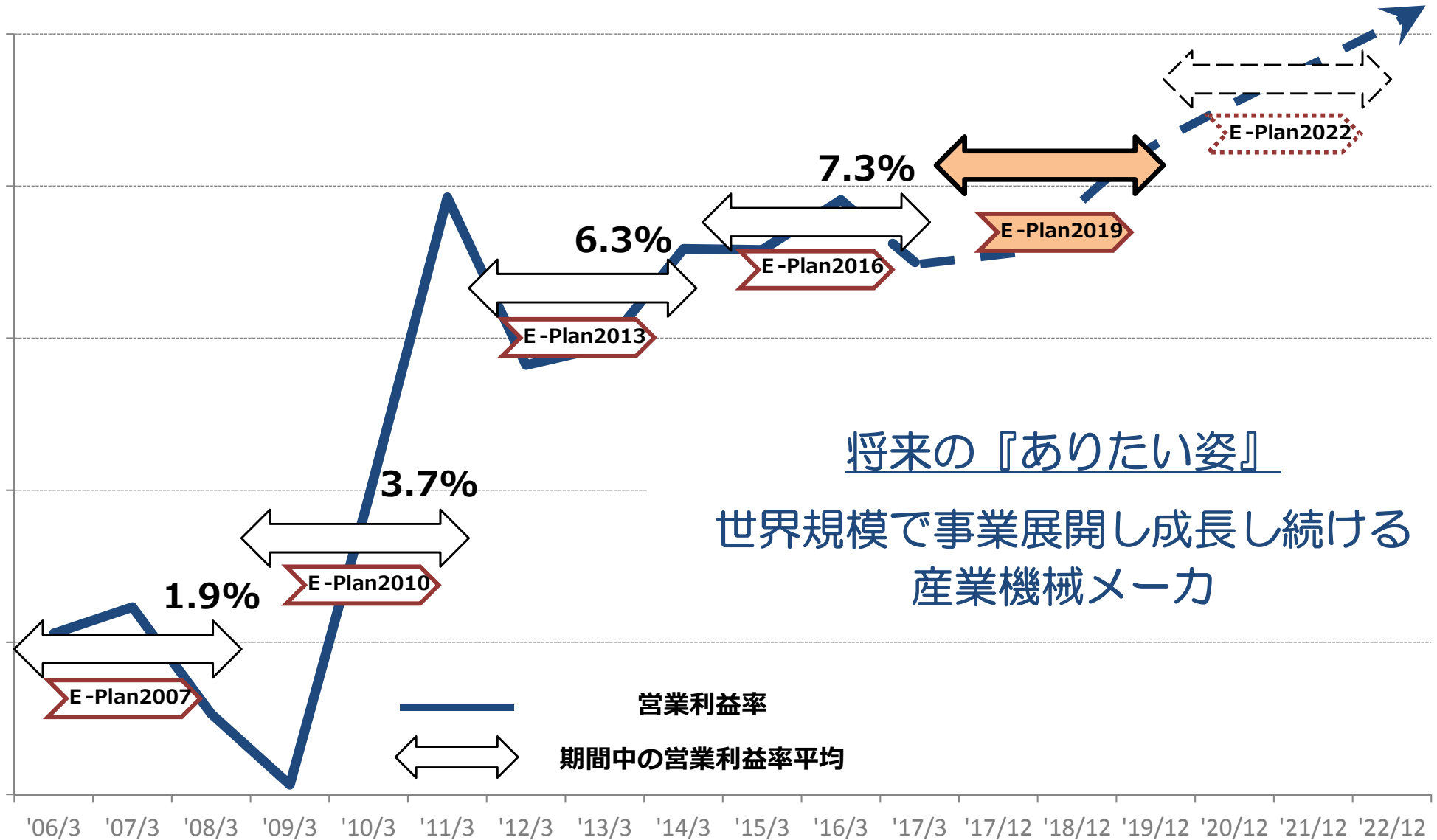
## 売上高

	変則9か月決算					12ヵ月決算		
	〈参考値〉 2016年 12月期 実績	2017年 12月期			増減	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期 計画	増減
		見込み	実績	増減				
風水力事業								
ポンプ	1,269	1,300	1,334	+ 34	+ 64	1,780	1,780	△ 0※
コンプレッサ・タービン	480	500	538	+ 38	+ 58	743	850	+ 106※
冷熱	250	250	292	+ 42	+ 42	358	370	+ 11
その他	139	130	93	△ 36	△ 46	159	140	△ 19
風水力事業 計	2,138	2,180	2,257	+ 77	+ 119	3,041	3,140	+ 98
環境プラント事業								
環境プラント	457	450	476	+ 26	+ 19	699	600	△ 99
環境プラント事業 計	457	450	476	+ 26	+ 19	699	600	△ 99
精密・電子事業								
コンポーネント	379	440	517	+ 77	+ 137	570	550	△ 20
CMP装置	458	495	498	+ 3	+ 39	685	680	△ 5
その他	56	65	58	△ 6	+ 1	64	70	+ 5
精密・電子事業 計	894	1,000	1,073	+ 73	+ 178	1,320	1,300	△ 20
その他	12	10	12	+ 2	△ 0	16	10	△ 6
その他 計	12	10	12	+ 2	△ 0	16	10	△ 6
合計	3,502	3,640	3,819	+ 179	+ 317	5,078	5,050	△ 28

※2017年12月期実績においてポンプ事業に含まれていますクライオポンプ（LNG（液化天然ガス）移送用ポンプ）事業の受注高及び売上高につきましては、2018年12月期予想ではコンプレッサ・タービン事業に含めて計画しています。

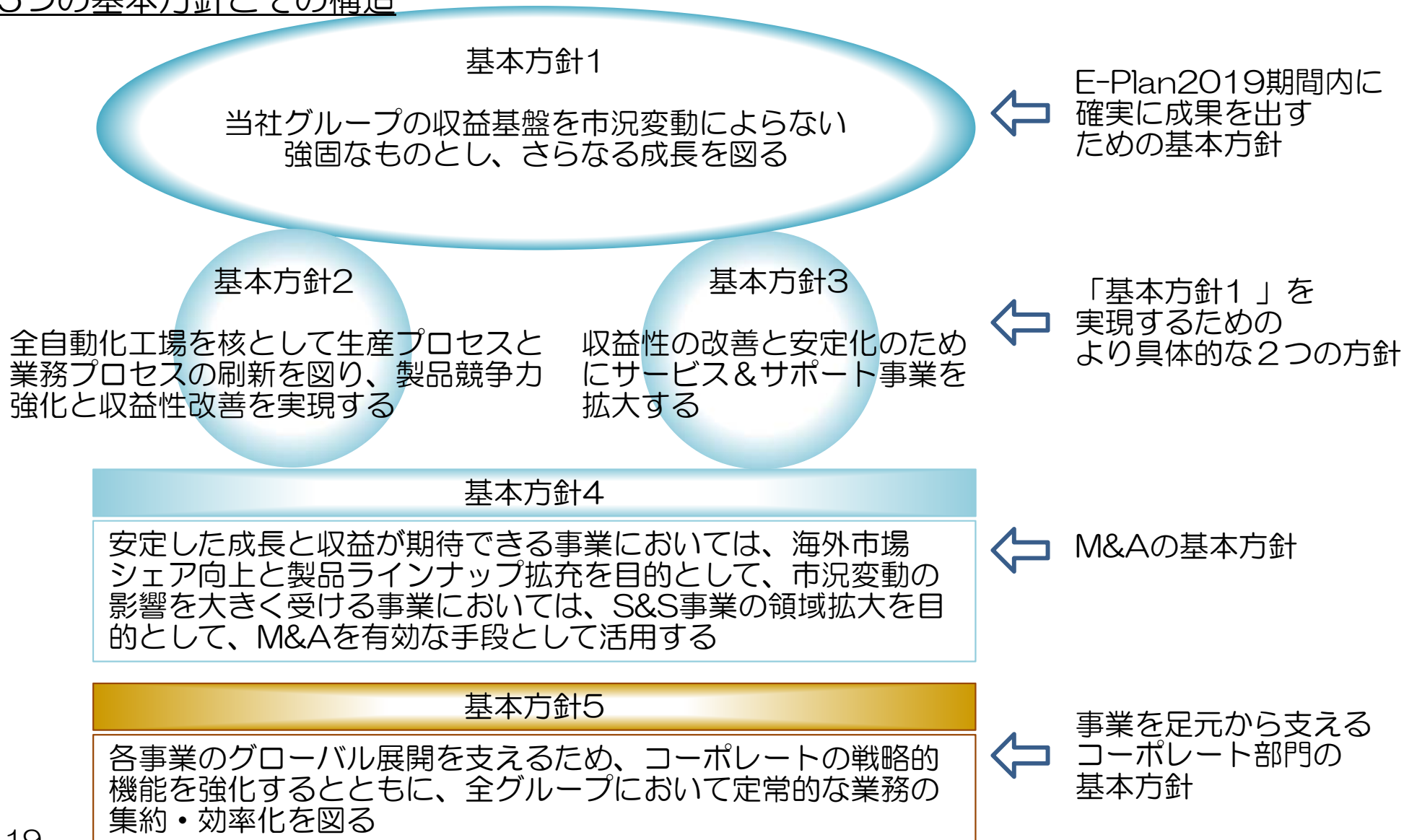
# 「成長への飽くなき挑戦」

E-Plan2019の3年間は利益成長を重視し全事業での収益性を向上させる期間



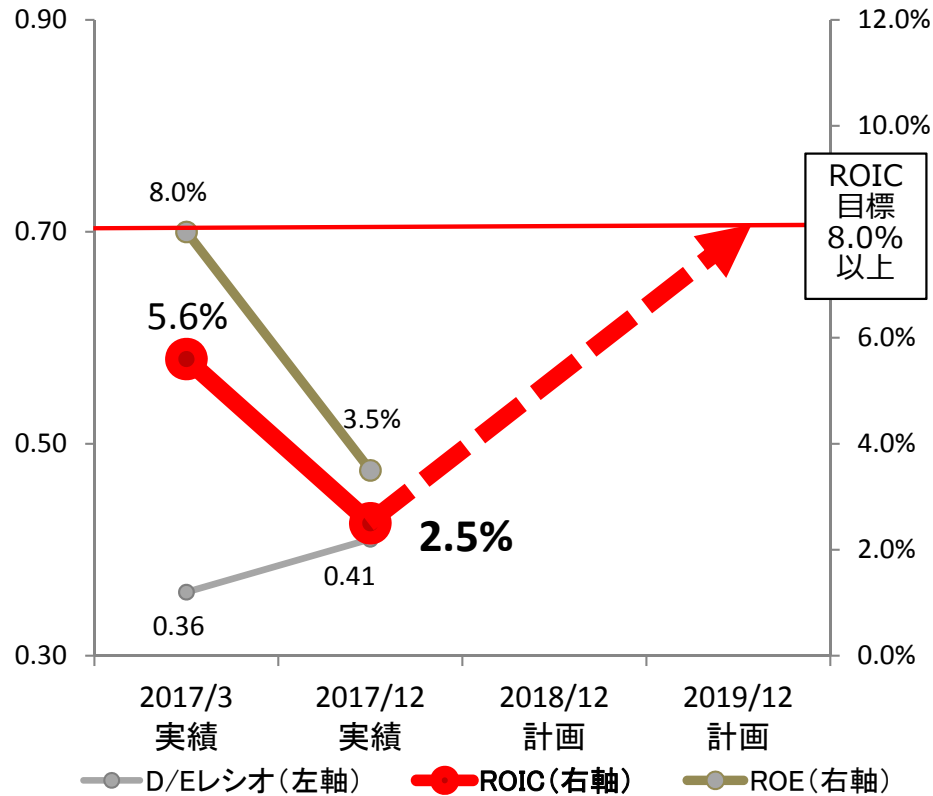
“成長への飽くなき挑戦”

### 5つの基本方針とその構造

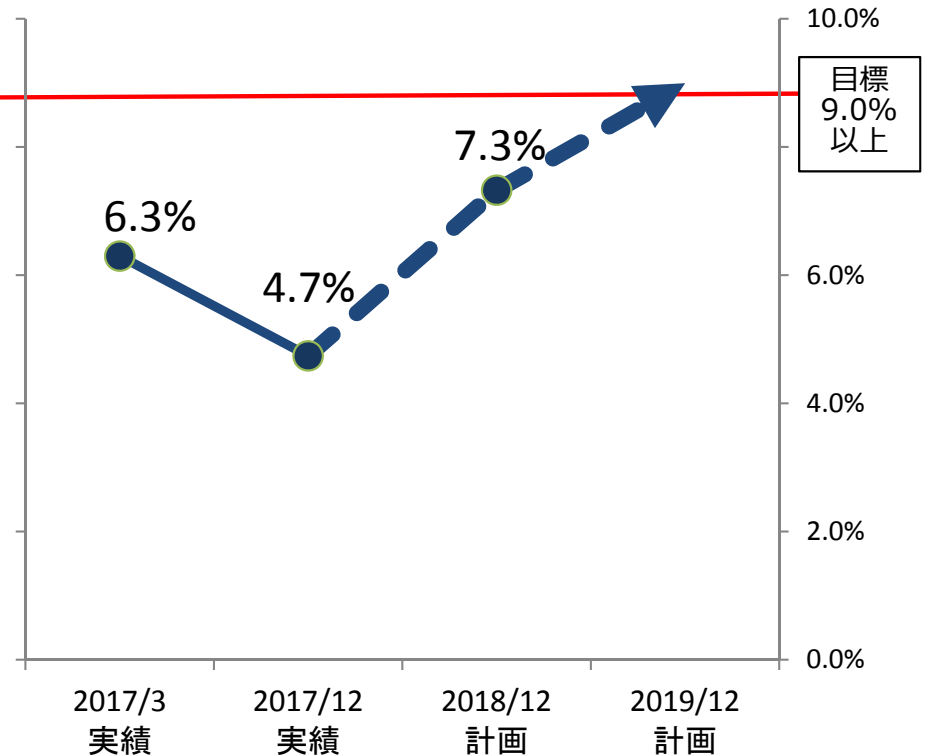


#### グループ全体での管理指標の進捗状況

##### ➤ ROICの推移



##### ➤ 売上高営業利益率の推移

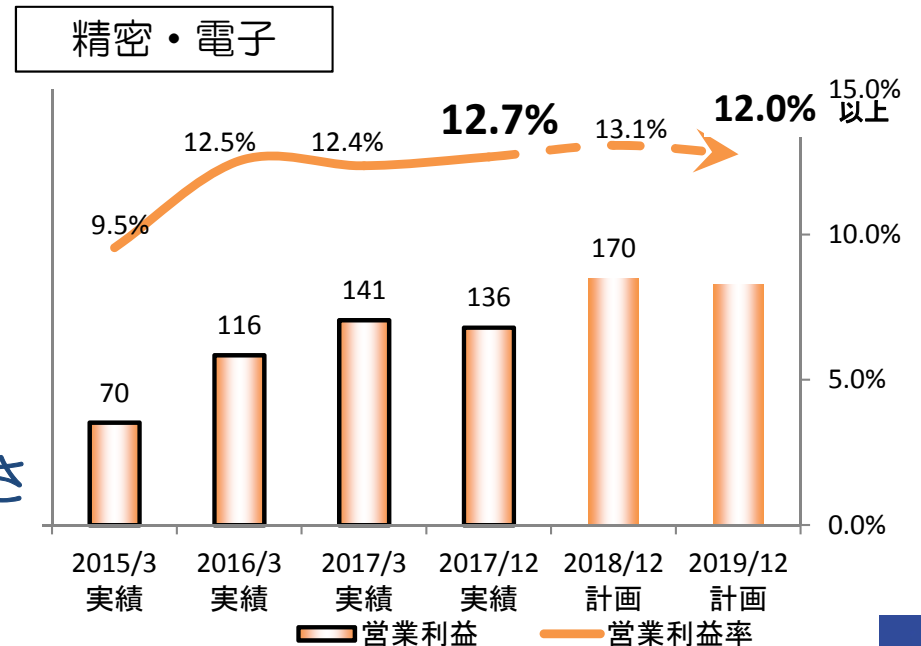
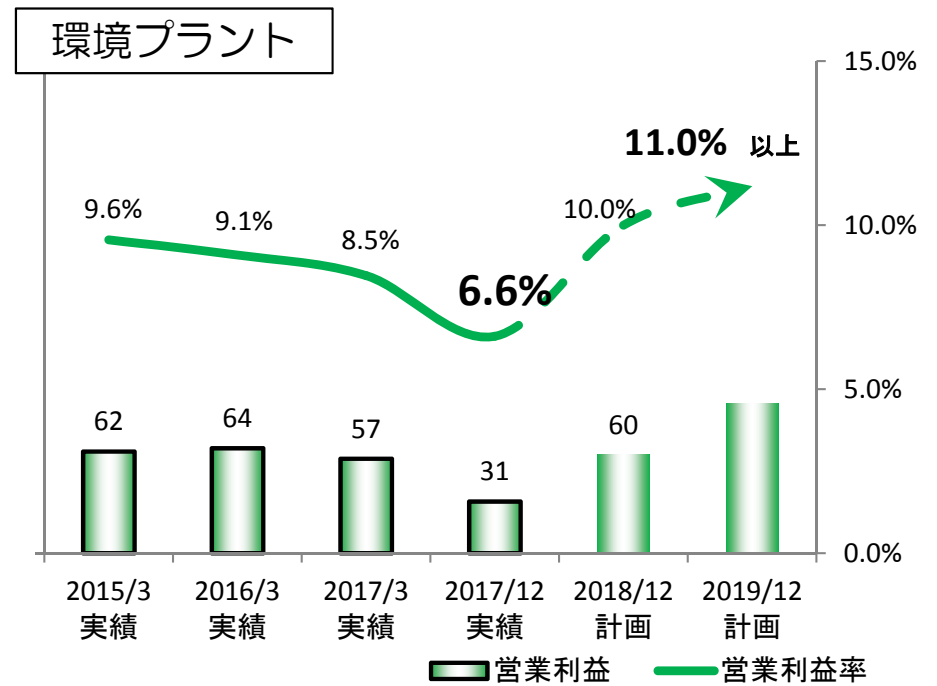
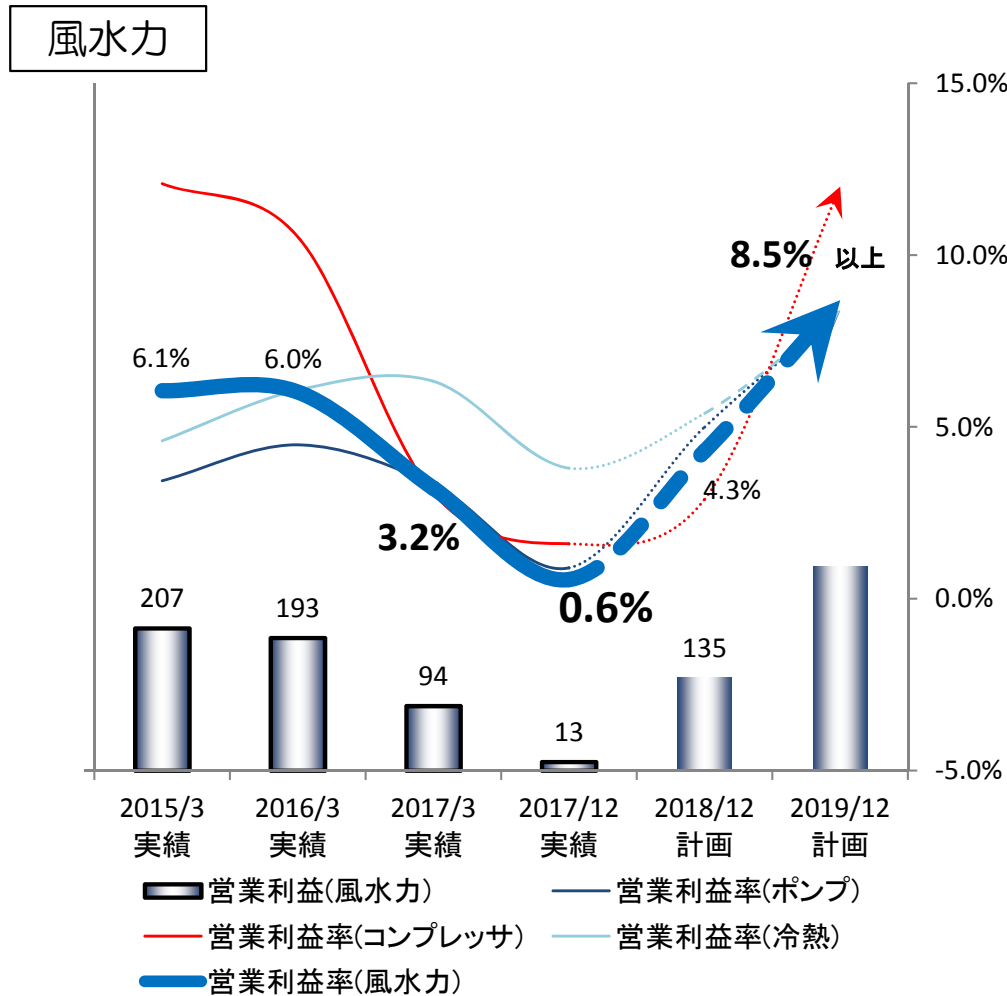


- 一年目は計画どおりの進捗も、変則9か月の決算のため当期純利益が一時的に減少し、ROICが低下

## 2. 今期の見通しと経営戦略

### E-Plan2019 一年目の振り返り

#### ➤ 事業別売上高営業利益率



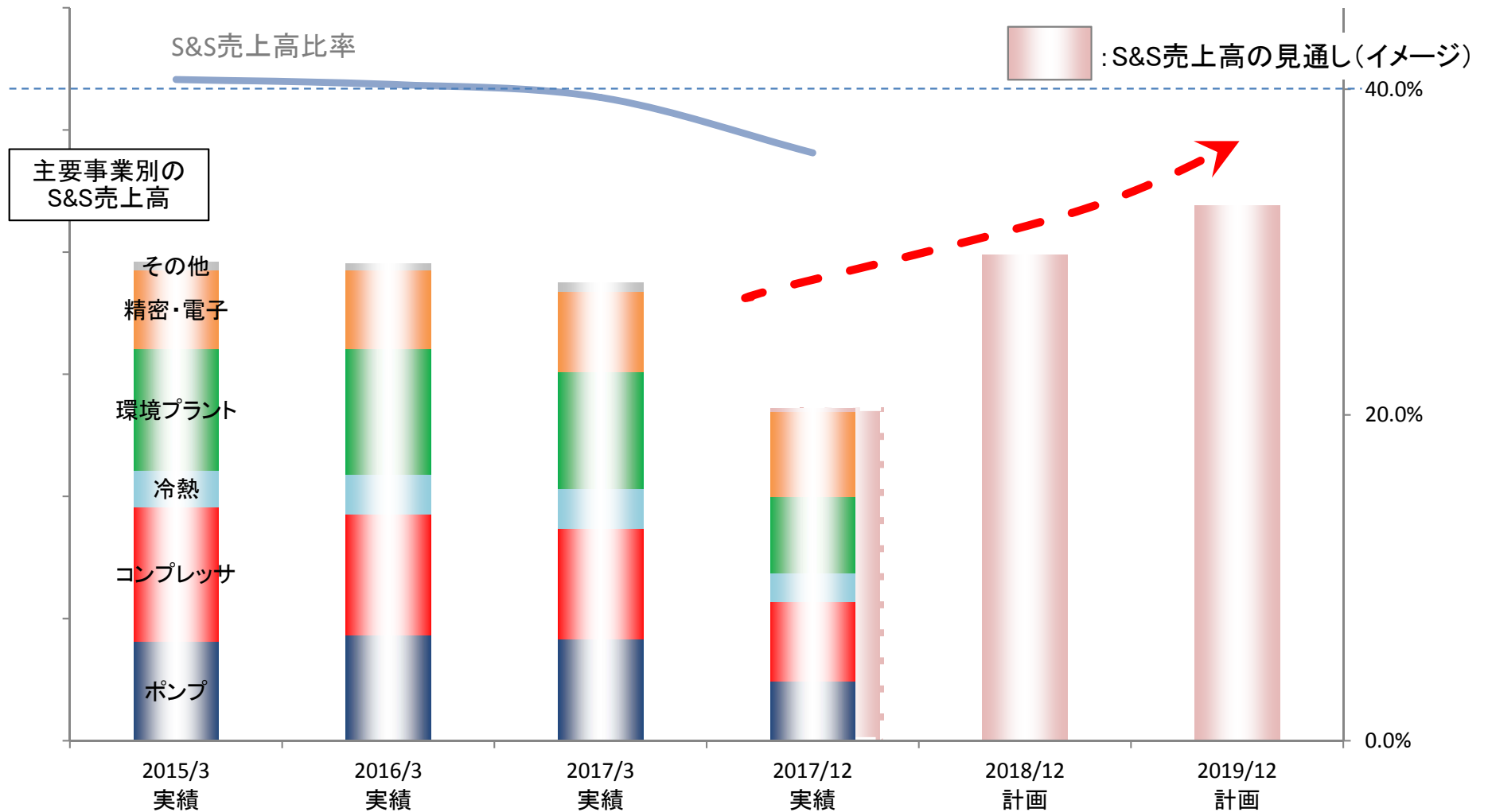
- 風水力事業で計画を下回る。外部環境に弱さが見られる。
- 環境プラント、精密・電子事業は順調。

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

### E-Plan2019 一年目の振り返り

#### 主要なKPI (S&S事業の売上高) の進捗

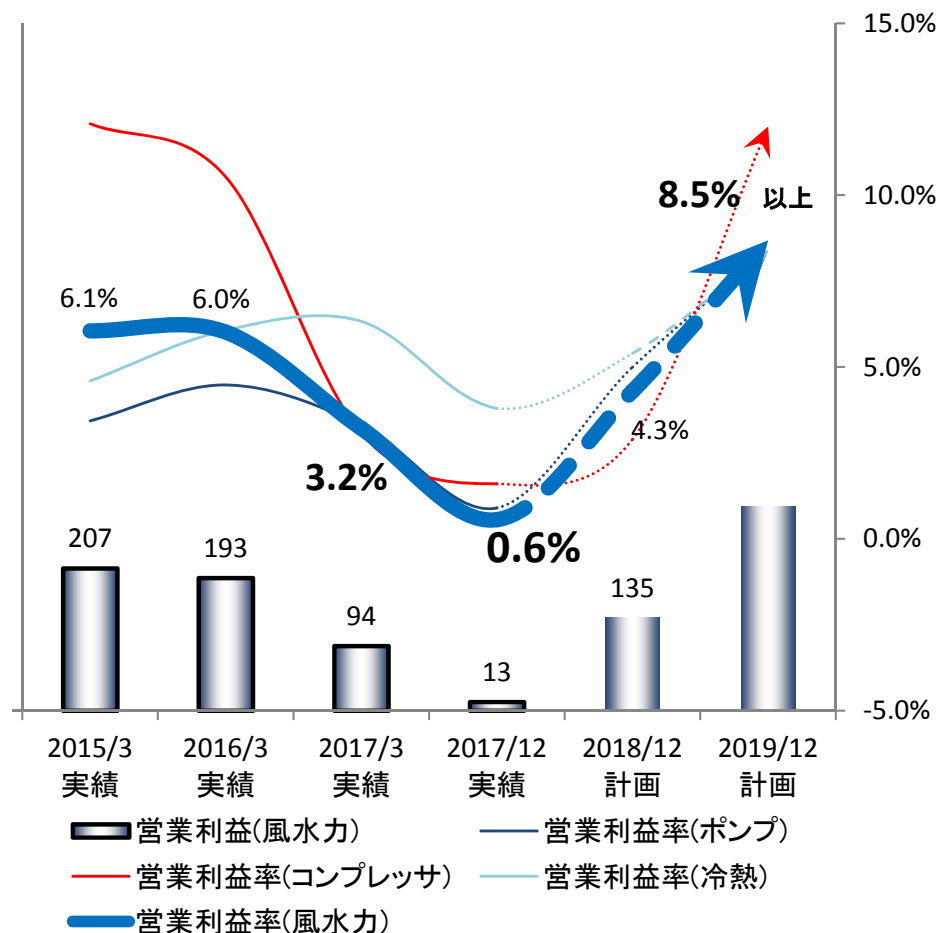
当社グループの収益基盤を市況変動によらない強固なものとするためには、全社ベースでS&Sビジネスを拡大していく必要がある → S&S売上高を当社の重要KPIとして採用



- **コンプレッサ・タービン事業のS&Sの本格的な回復は二年目以降。精密・電子事業で増加し、全体では見通しどおりに。**

#### 風水力事業

＜中期経営計画期間における営業利益率の推移＞



#### ポンプ事業

【外部環境】

- ・海外はエネルギー関連市場が低調
- ・国内はほぼ前年同期並み

【施策】

次ページ参照

#### コンプレッサ・タービン事業

【外部環境】

- ・石油・ガス市場の回復は未だ限定的
- ・顧客の設備投資に対する姿勢は慎重
- ・競争は価格を含め厳しい

【施策】

- ・設計の標準化、自動化
- ・リードタイム縮減
- ・包括的なサービス提案の実施

#### 冷熱事業

【外部環境】

- ・国内、中国共に市況は例年並み

【施策】


- ・中国市場で競争力のある製品の開発と拡販
- ・国内市場でS&S事業の強化

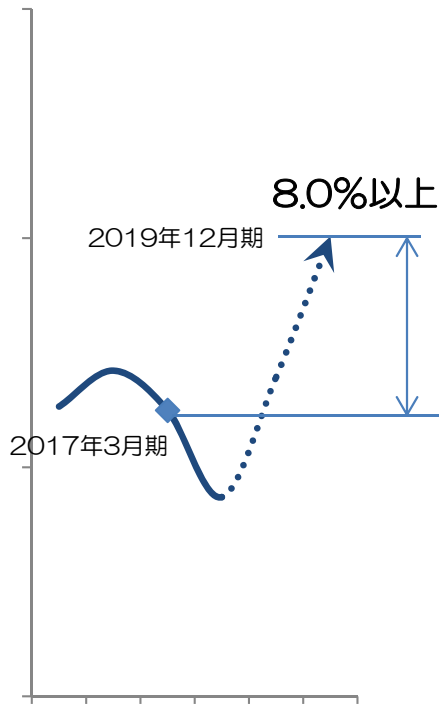
- 一年目の営業利益率は計画を下回る。
- ポンプ事業、コンプレッサ・タービン事業で石油・ガス市場の回復遅れの影響がみられる。



#### ポンプ事業の営業利益率改善のイメージと一年目の施策の進捗度合

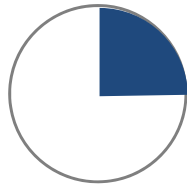
- 施策の進捗は順調。本格的な利益貢献は二年目以降

- ✓ 円の大きさ：利益率改善への貢献度合い
- ✓ ：施策の進捗度合



ポンプ事業の営業利益率  
改善イメージ

#### 収益性改善



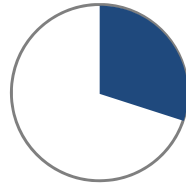
##### 標準ポンプ

- 既存機種の統廃合：削減後の出荷台数は前年同期比で増加
- 生産体制の抜本的小見直し：自動組立てラインの詳細を計画
- 業務の効率化：生産・販売の業務を効率化

##### カスタムポンプ

- 産業別のマーケティング組織を強化
- “デジタル化”の推進：生産・販売の基幹システムを拡充
- 業務の標準化：市場ニーズに合わせ製品仕様をパターン化

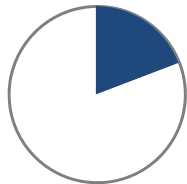
#### 売上増加



##### 標準ポンプ

- 新製品を継続的に市場投入：海外売上高比率は前年同期比で増加
- M&Aの活用：2017年8月、南アフリカの企業を買収

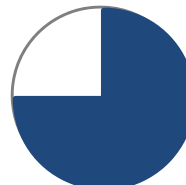
#### S&S拡大



##### カスタムポンプ

- 海外S&S事業の拡大：海外拠点に営業・技術人員をさらに派遣し、技術力の強化や現地従業員の教育を行う  
派遣人数はポンプ事業全体で約50名  
サウジアラビア拠点にワークショップを開設

#### 固定費削減

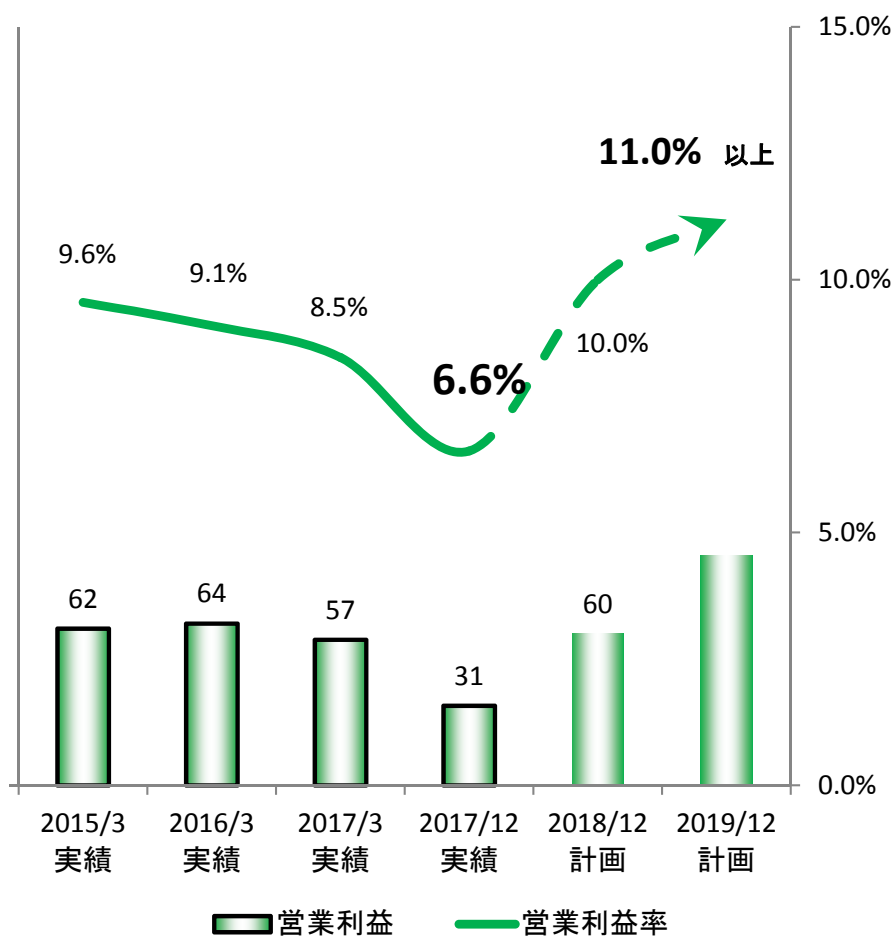


##### 標準ポンプ カスタムポンプ

- 国内事業の人員適正化：業務の最適化を行い、非正規雇用者の見直しと正規雇用者の再配置を実施  
国内事業の人員規模は 2割程度減少

#### 環境プラント事業

＜中期経営計画期間における営業利益率の推移＞



#### 【外部環境】

- EPC、O&Mの発注量は例年並み
- バイオマス発電施設の建設需要は継続

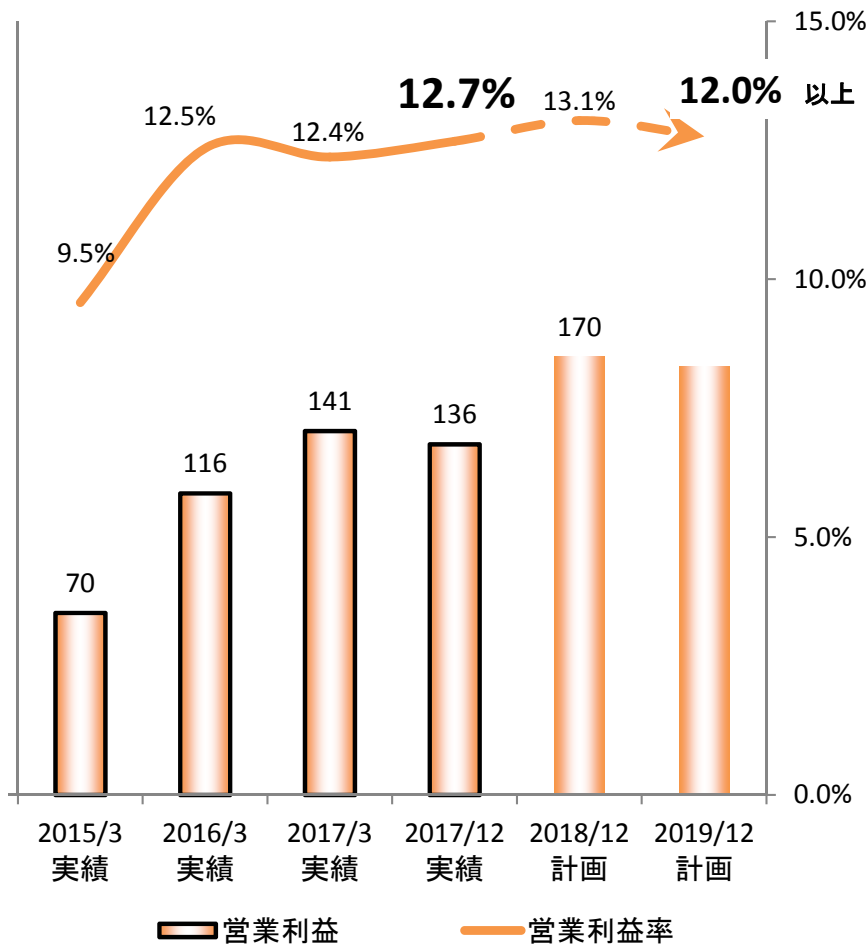
#### 【施策】

- EPCの収益性改善
- バイオマス発電設備の受注を推進
- 非価格評価向上への取り組み

➤ 利益率の減少は変則9か月決算の影響によるもので、一時的

#### 精密・電子事業

＜中期経営計画期間における営業利益率の推移＞



#### 【外部環境】

- 半導体関連の設備投資の水準は高い
- 特にメモリ関連の設備投資が活況

#### 【施策】

- ドライ真空ポンプの自動組み立てラインの構築
- 新製品の売上拡大
- オープンイノベーション方針を活用した、新技術の開発
- 既存製品群の競争力強化
- S&S事業の強化

➤ 外部環境の後押しもあり、営業利益率は堅調に推移

### 一年目の総括

施策は順調に進捗し全社の売上高営業利益率は計画を上回ったが、課題もある

### 課題

カスタムポンプ事業、コンプレッサ・タービン事業で営業利益率が伸び悩み、ROICにも影響

- 施策の進捗
  - エネルギー関連市場の回復
- ⇒ 計画どおり（効果が出るのは二年目以降）  
⇒ 中期経営計画策定時の見通しよりも遅れている  
自助努力によるカバーが必要

### 二年目以降に向けて

#### ROICの向上

##### 売上高営業利益率の改善

- ・各事業の最新の状況に応じた施策の投入（海外事業の再構築、組織の最適化など）
- ・施策の確実な実施と深化

##### 資本回転率の向上

- ・売上債権回転日数の短縮（カスタムポンプ、コンプレッサ・タービン、精密・電子）
- ・棚卸資産回転日数の短縮（標準ポンプ、精密・電子）
- ・適切なバランスシート管理（財務レバレッジの適切なコントロール）

- ROIC 8.0%以上の目標達成に向け、「資本効率」をより重視しながら引き続き収益性の拡大に取り組んで行く

経営管理指標の達成状況

		2017年3月期 (実績)	2017年12月期		2019年12月期 (目標)
			(期初計画)	(実績)	
全社	ROIC	5.6%		2.7%	8.0%以上
	営業利益(億円)	299	150	181	
	売上高営業利益率	6.3%	4.2%	4.7%	9.0%以上
風水力事業	営業利益(億円)	94	20	12	
	売上高営業利益率	3.2%	0.9%	0.6%	8.5%以上
環境プラント 事業	営業利益(億円)	57	40	31	
	売上高営業利益率	8.5%	8.9%	6.6%	11.0%以上
精密・電子 事業	営業利益(億円)	141	90	136	
	売上高営業利益率	12.4%	10.0%	12.7%	12.0%以上

---

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定、を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。